

2014年9月22日

ナノインプリント事業を推進する SCIVAX 株式会社への出資を決定

株式会社産業革新機構（以下「INCJ」）（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：能見公一）は、ナノインプリント事業を推進する SCIVAX 株式会社（サイヴァクス、以下「SCIVAX」）（本社：神奈川県川崎市、代表取締役社長：田中覚）に対し、今後の事業推進に必要な資金として 6.6 億円を上限とする出資を行うことを決定しました。

また、SCIVAX に対しては、既存株主である三井住友海上キャピタル株式会社（本社：東京都中央区、取締役社長：五十嵐仁志）、日本ベンチャーキャピタル株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：奥原主一）それぞれが運用するファンドも出資を行う予定です。

ナノインプリントとはナノサイズのパターンが刻まれた原版を押し当てることによって樹脂表面やガラス表面などに微細なパターンを転写する技術で、1995 年にアメリカで発明されて以来、特に半導体製造プロセスへの応用が期待され、様々な研究開発が行われてきました。しかし、微細構造が簡単に形成できる反面、技術的な課題から大型化やガラスなどの脆い基材、曲面などへの適用は難しいとされ、量産製品での採用は限定的となっていました。

これらの課題に対し、最大 1 メートル角を越える大面積ナノインプリント技術が SCIVAX の最大の強みです。一般的にナノインプリントは半導体の超微細構造の形成に使うことを想定していたため、大面積化が難しいとされてきました。SCIVAX は独自に加工部材全面に均一に圧力を掛けられる技術を確立し、微妙な圧力コントロールにより、従来不適とされてきたガラスのような脆い材料や、レンズなどの曲面部材にもナノインプリント加工が可能となりました。

これにより半導体関連製品の加工のみならず、ディスプレイや太陽電池、カメラレンズなど様々な光学製品等への適用が期待されます。特に光学製品に関しては、装置開発に留まらず光学設計の為のソフトウェアも自社開発し、設計から生産までの一貫体制を構築したところです。

INCJ は SCIVAX に対して、今後の事業推進に必要な資金を供給するとともに、社外取締役の派遣、事業開発体制の強化、さらに戦略パートナーとの提携支援などの経営サポートを行います。INCJ は上記の取り組みを通じ、SCIVAX が単に装置販売では

* 1 ナノメートルは 1 センチメートルの 100 万分の 1。髪の毛の太さの約 100 分の 1。

なく、独自の装置技術を活かした高付加価値な部材製造ビジネスへと転換するモデルケースとなるよう、支援してまいります。

SCIVAX 株式会社（サイヴァクス）について

設立	2004年2月
事業内容	ナノインプリント装置及びプロセスの開発・受託生産事業 ナノインプリントを用いた技術コンサルティング事業
本社所在地	神奈川県川崎市
代表取締役社長	田中 覚（たなか さとる）

株式会社産業革新機構（INCJ）について

INCJは、2009年7月にオープンイノベーションの推進を通じた次世代産業の育成を目指して、法律に基づき設立された会社です。総額約2兆円の投資能力を有しており、革新性を有する事業に対し出資等を行うことで産業革新を支援することをミッションとしています。

INCJは、投資・技術・経営等で多様な経験をもつ民間人材によって運営されており、法令に基づき、当社内に設置している産業革新委員会にて、政府の定める支援基準に従って投資の可否の判断を行い、日本の産業革新に資する投資を実施いたします。

INCJでは、これまでに合計76件・総額約7,500億円の投資決定を発表しました。当面、環境エネルギーにも関連するエレクトロニクスやITの分野、バイオ・ライフサイエンス分野、水ビジネス等インフラ関連分野などにおいて、知財ファンドによる先端的な基礎技術の事業展開、ベンチャー企業等の事業拡大、技術等を核とした事業の再編・統合、海外企業の買収等による積極的な海外展開などに対してハンズオン投資を行ってまいります。

（本発表資料のお問い合わせ先）

（株）産業革新機構（INCJ） 企画調整室 津野・畑

東京都千代田区丸の内1-4-1 丸の内永楽ビルディング21階

電話：03-5218-7200（大代表）